

特許紹介

第26巻第6號 昭和15年6月

コンクリートと假棒との接着を防止する 薬劑の製造法

(特許第134687號 發明者 田邊龍三)

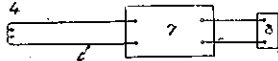
一般にコンクリート假棒に塗布して剝離を容易ならしめるものには油脂蠟を主成分としたものが多く、之等は往々剝離後コンクリートに附着し、又は剝離面が平滑なる爲上塗等を行ふに支障を來すことがある。この發明は以上の缺點を防止する爲考案したもので、乾燥性油脂に空氣を吹込み乍ら加熱重合させ、適當時に極めて微量の砂糖又はタンシンの如きセメントの硬化を妨げる物質を加へて製造するもので、之により假棒に接する部分のセメントの硬化を防止して剝離を容易ならしめ、假棒取外後の表面を粗荒ならしめ得るものである。

地下探査用電磁的高倍率變位微動計

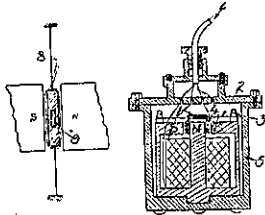
(特許第134727號 發明者 渡邊 賢、秋野善雄、明石和郎)

起電側に於ける地動の變位を檢出側に於て電磁的高倍率に檢出記録せんとするものであつて、從來の装置は地動の變位を何回か

圖-1.



時間的に微分した量を記録するものなる爲、之を用ひて數百米乃至數千米の深所に於ける地層を探査することは、長週期の地動に對しては感度著しく遲下して實用にならない憾あるも、本發明は斯かる



地動に對して有效適切なるものである。電流計コイルに働く制振力を特に過大ならしめてコイルの振れの角を電流の時間的積分値に比例 ($\theta = \frac{ac}{\lambda} D$, 但 a, c, λ は常數, θ は線輪の回轉角, D は地動の變位量) せしめたものである。圖-1 中 (1)~(5) は起電側に於ける装置, (7)~(9) は檢出側に於ける装置を示す。

地下埋設物の防蝕法

(特許第134825號 發明者 京極高男)

鉛管、鉛被電纜等の地下埋設物を電解液中に於て之を正極として電解を行ひ、其の表面全體に互り鉛層を過酸化鉛層に化成せしめ、更に其の上に瀝青防蝕塗裝其他の防蝕塗裝を施す方法である。過酸化鉛層は他物を混ぜざる純粹な状態で形成せられ、且つ埋設金屬體の表面に於ける鉛自體を化成したものである爲、其の緻密なる

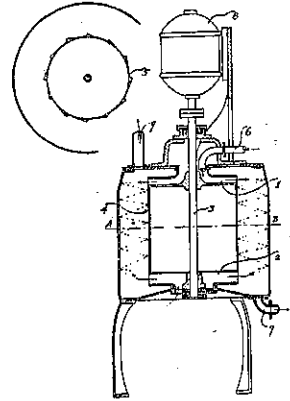
事及金屬體に對する接着が良好なる特長がある。従つて此の種のものに於て要求せられる表面の電導度の良好なる事及其れの各部分に於て均一なる事に對しては共に満足なる結果を與へるものである。

淨水装置

(特許第144533號 發明者 津田喜次郎)

特許第118529號の追加發明である。適當な器内で上部に放射水車(1)を下部に送風機(2)を装設し、其の間に表面に凹凸のある圓筒(4)を嵌裝して同時に急回轉させ、其の表面と器周壁との間に於て水滴を反覆反撥させて氣曝時間の延長を圖つたものである(圖-2)。

圖-2.

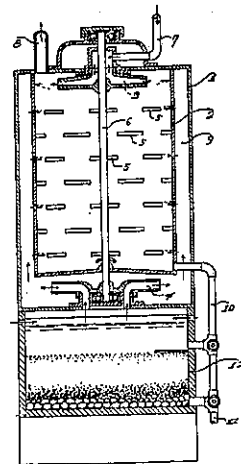


軌道用自働列車速度記録装置

(特許第131895號 發明者 藤野富一郎、上原健二郎 特許權者 鐵 廠)

列車軌道に沿ひ、一定距離を隔て、電路開閉器2個を裝備させ、軌道上を走行する列車で前記の電路開閉器を制御するやうにした此の種装置の改良を圖つたもので、開閉器の通過時間を直ちに列車時速に換算表示すべき記録紙を回轉圓筒に捲付け、其の圓筒の回轉に伴ひ記録紙面に記録針により直線を記録させ、其の記録線長を列車速度に對應させるやうにしたものである。

圖-3.



淨水機

(特許第131985號 發明者 東 幸昌)

適宜の二重面(1),(2)を造り内面(2)には上部に水車(3)を設け外面の下部に送風機(4)を同一軸に連結し、其の周壁には數段に併列する横に細長き孔(5)を穿ち、又外面は内面と少しの間隙を存して外部を包圍するやうにしたもので、氣

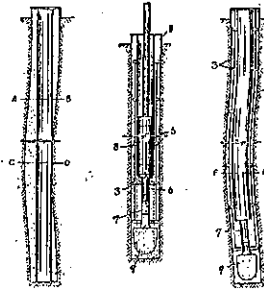
曝効果の増大を圖つたものである(圖-3)。

セメント井戸側構成法

(特許第 135750 號 發明者 本山博康)
(特許權者 利北ホーリング)

地中に數十尺乃至それ以上の穿孔を行ふ時は其の全長を通じ、到底真直を期し得ないもので途中が様々に彎曲をなすもので、斯く彎曲した孔内にセメント乳を送入凝固せしめた後中心部に真直なる井戸内孔を貫通する時は必然的に圖-4 の如くなる虞がある。本發明は以上の不都合を除去し

圖-4. 圖-5. 圖-6.



其の全長に互り側壁の厚き均一なる井戸側を構成せんとするものである。即ち穿設孔内に多数の既製ブロック(3)を挿入し、これに依り穿設孔と同心圓狀を爲すやうにセメント乳注入管(2)を挿入し、孔壁と各既製ブロックとの間にセメント乳を送入凝固せしめた後注入管を引抜くことに依り孔の全長に互り其の中心線に沿ふ擴孔錐誘導孔(7)を形成せしめ、次いで誘導孔内に擴孔錐(5)の誘導部(6)を挿入し、孔に沿ひ擴孔錐を動かして井戸側内壁を削るのである(圖-5)。斯くすれば井戸側外壁孔が圖-6 の如く彎曲してゐても其の内壁孔は之と同心的となり壁厚均一となるものである。

竹を適用せるコンクリート用筋材の製造法

(特許第 135165 號 特許權者)
(發明者 七條記孝)

(1) 竹を適當季節に伐採し相當乾燥後各關節の内部隔膜を貫通して全體を空洞とし、且つ其の一端に木栓を施して之を底部として立體垂直狀に定置し、(2) 次いで酸化マグネシウム粉炭酸カルシウム粉細砂の各適量混合物と、鹽化マグネシウムの溶液中へ蓆酸の少量を添加し、充分攪拌飽和せしめた特殊の硬化液との流動沈下性練捏物を適當なる注入装置により開放口より竹材内に注入充填し、(3) 注入口にも木栓を施し是を其の儘又は適當に加熱して凝結硬化の迅速を圖つたもので、之に依り耐アルカリ性竹筋を製造せんとするものである。

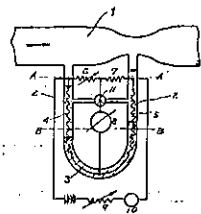
電氣的流速測定方式

(特許第 135184 號 發明者 朝原成吉)
(特許權者 利北ホーリング 朝原成吉)

U字管の兩脚(2)内に比重及熱傳導率の相異なる2種

の液體を充填し、其の液體中に一定長の抵抗線(4),(5)を設置せしめ、以て流速に應じ變化する前記異種液體境界面の移動に即應する各脚中の抵抗線の溫度變化を利用して電氣的に流速を測定するやうにしたもので、廣範圍に互り正確鋭敏且つ簡易に流速を測定し得る利點がある(圖-7)。圖中(6),(7)は溫度により抵抗値の變化せざるもので、(4),(5),(6),(7)でホキーストンプリッジの四邊を構成するものである。

圖-7.



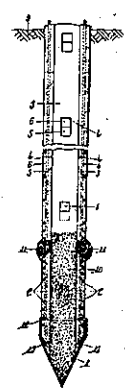
(附) 登録實用新案

基礎杭

(第 270780 號 公告 14 年 14063 號)
(實用新案權者 和田貞太郎)

中空尖頭(1)と之に鐵筋を接續せる中空コンクリート杭體(3)とより成り、其の杭體には上部水平下部傾斜の多數の孔(6)を設けて、充填コンクリートの外部逸出を容易且つ大ならしめたもの(圖-8)。

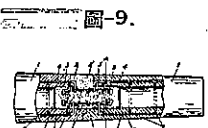
圖-8.



中空鐵筋コンクリート柱の接手

(第 279770 號 公告 14 年第 14327 號)
(實用新案權者 山口三郎)

(5)は補助輪筋(6)を有する補助鐵筋、(7)は仕切板、(2)は柱の各端に設けた切缺で相對接してコンクリート充填口を形成するもの(圖-9)。



コンクリート打込装置

(第 279664 號 公告 14 年第 3868 號)
(實用新案權者 阿久秀一)

スキップカー(4)を昇降せしめる鐵塔(1)の一侧に上下し且つ同動し得るやうに取付けた枠體(6)にはベルトコンベヤ(11)を張渡し、更に枠體の根元には鐵塔に向つて開口せる導樋(12)を固定せしめて、コンクリートを任意の位置に輸送し、且つ輸送中材料の分離を防止せしめたもの(圖-10)。

圖-10.

